

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	●プロジェクト目標に対する達成度 プロジェクト目標である「4 年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、教員/スタッフが育成され、プール、ジムが整備されることによって、NIPES の学生が現行の学習指導要領に沿った中・高等学校体育科を教えるために必要な領域・種目を履修することができるようになる。」に対して、下記の通り達成した。 2 年次事業を通して 4 年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、プール、ジム等のインフラ施設及び資機材が整備された。施設の維持管理に関する教職員の理解度テストも目標の 70%以上の正解率を達成し、現在も自主的に維持管理がなされている。 教職員の育成に関わる活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での授業や研修会、日本での研修等の実施が困難であったため、オンラインを活用して実施した。4 年制大学体育科コースの運営については、課題の共有や運営ハンドブックの改訂を通して、教職員の理解を深めることができた。授業については、不慣れなオンライン授業への対応や脆弱なインターネット接続状況が影響して、カリキュラムやシラバスに従った授業を計画通りに実施することができなかったため、NIPES の学生が必要な領域・種目を十分に履修する事はできなかった。●上位目標に対する貢献 プロジェクト目標に対して本年度事業が概ね計画どおり達成されたことにより、上位目標である「学習指導要領に沿った体育科教育が中・高等学校教育の現場で実施されている。」の実現に向けて十分に貢献できたと考える。 第 2 年次は NIPES において実際に 4 年制コースの運営を開始し、運営ハンドブックの改訂やシラバスの新訂・改訂といった運営に必要なシステムの改善を行うことができた。しかしながら新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面でのマネジメント業務や授業がほとんどできず、課題も残るものとなった。最終的には、本事業による 4 年制コースを卒業する生徒が、学習指導要領に沿った体育科教育を実践できるよう、最終年次では円滑な運営を実践していく必要がある。 ●今期事業達成目標 「4 年制の中・高等学校体育科教員養成課程が大学運営基準に従って運営される。」については下記の通り達成した。 大学運営基準に従ってどの程度運営できているかを確認するための、124 項目にわたる詳細なアセスメントシートを作成した。同アセスメントシートを用いた運営評価を実際に行い、達成度と課題が明確にされたことに加え、研修会では、各項目の内容と必要性について説明し、アセスメントシートを使って運営全体を評価する会議を毎年実施する事を決定した。これにより、今後も大学運営基準に沿った運営がなされていくことが見込まれる。

(2) 事業内容	<u>第2年次の活動の実施状況全体について</u> 2021年2月20日にプノンペン市内において新型コロナウイルスの市中感染が確認され、カンボジア政府（教育・青少年・スポーツ省）は3月より公立私立を含むすべての学校教育機関を閉鎖した。結果として、事業対象地であるNIPESも3月から4月にかけて閉鎖された。このため第2年次事業（3月1日開始）として計画されていた活動のうちの建設工事を除き、開始に遅れが生じた。 その後も感染拡大が続いたため、NIPESでは対面授業が禁止され、オンラインによる授業が実施されていた。それに伴い、本事業で予定していた対面での研修会やモニタリング等もオンラインでの実施に変更することで対応した。それに伴い、本事業で予定していた対面での研修会やモニタリングもオンラインに変更することで対応した。 10月以降、対面での活動が徐々に実施できるようになったものの、2022年2月にオミクロン株感染が拡大したため、再度オンラインでの活動実施に切り替えることで対応した。 また、海外渡航が困難な状況が続いていたため、専門家派遣や日本研修についてもオンラインを活用することで活動の実施に努めた。 新型コロナウイルス感染拡大によって活動全体に大きな影響が出たが、オンラインツールを用いて柔軟に対応することで、計画されていた活動を概ね実施することができた。 1. NIPESの体育科コースが4年制大学に移行するための制度が整えられる。 1-15. 体育科コース運営ワークショップを開催する。 計画では4月上旬に対面で実施する予定であったが、オンライン形式に変更して、6月28日から30日までの3日間実施した。 ワークショップ参加者に対して、日本体育大学評価基準について説明したうえで、第1年次に作成した体育科コース運営ハンドブックに従ってNIPESの運営業務と各担当を明確にし、実際の運営業務を全員で確認した。 1-16. 体育科コースを試行的に運営する。 プノンペン市内における新型コロナウイルス感染拡大対策の影響で3月からNIPESが閉鎖されたため、3月及び4月は授業を実施できなかったが、5月からオンライン授業による体育科コースの運営を開始した。 1-17. 体育科コースの運営をモニタリングする。（全6回、本部スタッフが3回目及び6回目に参加。） 全6回中3回実施した。本部スタッフの参加（2回）は中止した。 2. NIPESにおいて、質の高い体育を教えられる人材が育成される。 2-1. 新しいカリキュラムに沿った教員マッチアップワークショ
----------	--

	ップを開催する。 計画では3月中旬に対面で実施する予定であったが、オンライン形式に変更して、5月25日から27日までの3日間実施した。 2-2. 4年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修の内容を検討する。 NIPES 関係者と密に協議しながら、体育教員育成研修の内容について検討し、合意を図りながら研修会を実施した。 2-3. 4年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上するための体育教員育成研修を日本とカンボジアにて実施する。 (日本研修2回) 日本研修2回を中止し、カンボジア国内での研修会1回に変更した。1月20日から22日の3日間、NIPESの教職員40名を対象に対面での研修会を実施した。また計画にはなかったが「シラバス(1年生用、100冊)(4年生用、100冊)」を作成し、研修会で使用した。 (カンボジア研修2回) 第1回目は6月の上中旬にカンボジア国内において対面形式で実施する予定であったが、10月20日から22日までの3日間、49名を対象にオンライン形式で実施した。 第2回目は2月9日から11日までの3日間、対象者を30名から50名に変更し、オンラインで実施した。日本の専門家の招へいは中止し、日本からオンラインで講義を行った。 2-4. NIPESの体育教員の授業実施状況をモニタリングする。(1年間で6回実施予定。本部スタッフが3回目及び6回目に参加。) 予定していた全6回中4回の実施となった。第1回目は市内の対象中学校で実施する教育実習をモニタリングする予定であったが、学校閉鎖により市内の中学校で活動を実施することが困難な状況が続いていたため、7月にNIPESの学生がNIPESの学生に対してオンラインで実施する模擬授業をモニタリングすることにした。その後の3回は計画通りNIPESの授業をモニタリングした。 2-5. 大学マネジメント能力向上のための研修を実施する。 事業全体に遅れが生じていたためスケジュールの確保が難しく、活動2-3の研修会において関連する内容を取り扱ったことも考慮し、中止した。 2-6. 教える人材、運営するための人材が育成されたかを確認するための評価会議を開催する。 9月15日から17日の3日間、対象者数を30人から64人に増やし、オンラインで実施した。日本の専門家の招へいは中
--	---

	止し、日本からオンラインで講義を行った。 2-7. 教育省として、体育関連の修士課程を修学できる NIPES スタッフを派遣するため、タイ、マレーシアの大学との協議を行う。 タイ及びマレーシアでの研修会を中止した。マレーシアの大学の担当教授が異動になったため、実現可能性の観点から、インドネシアの大学との協定を検討することに変更し、2 月 17 日にインドネシアの大学とオンライン会議を実施した。 3. NIPES において、質の高い体育を教えられる施設状況が整う。 3-2. プール関連機材を調達する。コースロープの設置。 12 月 15 日にコースロープの設置が完了した。 3-3. プール周辺のテラスと建屋（一部 2 階建て）を建設する。 3 月 5 日に建設業者・NIPES・当会の 3 者にて建設契約書に署名し、建設工事を開始した。その後 4 月のロックダウンの影響等で工事が遅れたが、12 月 7 日に完成した。 3-4. ジム・ルームを建設する。 建屋 2 階のジム・ルームは 10 月 23 日に完成した。 3-5. ジム機材を調達するとともに、体育の授業に必要な各種ボール等のスポーツ用具が現在不足しており、これを改善するために最低限必要な用具を購入する。 ジム機材を 6 月に発注し、10 月 25 日、26 日に搬入、設置した。各種スポーツ用具は 12 月上旬に発注し、12 月 5 日に搬入を完了した。 3-8. 施設建設状況を確認する。 エンジニアが建設工事の状況を随時確認し、報告を行った。必要な場合には、建設業者、NIPES、小会の 3 者が建設工事現場に集まって会議を行い、合意の上で工事を進めた。 3-9. 施設管理のためのワークショップを開催する。 11 月 16 日、NIPES 教職員 14 名に対し、ジム機材会社のインストラクター 2 名が、ジム機材のメンテナンスと各機材の使用方法についての研修会をジムルームで実施した。 プール周辺の建物に関するワークショップは実施を取りやめた。施設建設完了後から、維持管理を行うグループが建設業者から指導された方法に基づいて適切に管理しており、体制が整っていたことから、ワークショップは必要なしと判断した。
--	--

	3-10. 施設移譲のための覚書を交わし、譲渡式は自己資金で実施する。 12月8日、施設及び機材・スポーツ用具の譲渡式を実施した。同譲渡式には三上大使と教育・青少年・スポーツ省大臣が出席した。 12月10日にNIPES、業者、小会の3者で施設譲渡のための覚書を手交した。 3-11. 施設運営マニュアルを作成する。 新型コロナウイルスの影響で建物建設に遅れが生じたため、マニュアルを作成するための日程を確保することができなかったことに加えて、日頃から使用しているメッセージアプリのグループチャットで対応した方が利便性が高いと判断し、マニュアルの作成は取りやめた。NIPESの各施設については、グループチャットの中で、維持管理や資材管理に関する説明や質疑応答を行うことで対応する。ジム機材については、11月に実施したジム機材用ワークショップで配布された、業者のマニュアルを代用する。 3-12. 施設運営・利用状況のモニタリングを行う。 プールの維持管理に関しては、管理グループが適切に維持管理を実施していることを確認した。 プール周辺の建物やジム・ルームについては、2月23日にモニタリングを実施した。						
(3) 達成された成果	第2年次の成果・指標・達成状況は以下のとおりである。 <table><tr><th>成果</th><th>指標</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>【成果1】 NIPESの体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。</td><td>【指標2】 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った4年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第1年次では制度の基盤が12月に整ったので、達成度を50%とする。そして今年度から実際に制度の運用を開始するため、第2年次の達成数値は新しく運用の程度を評価</td><td>【指標2の達成度】 活動1-15体育科コース運営ワークショップを通して、NIPESにおける4年制大学運営にかかる課題・教訓が抽出された。その内容を基にハンドブックを改訂し、教員用120冊、学生用150冊を作成した。 さらに第1年次に作成した1年生のシラバスを改訂し、新しく4年制のシラバスを作成し、各100冊印刷した。 第2年次は新型コロナ感染拡大の影響で対面による授業、研修会、会議がほとんどできない状況であったが、計画通り運営ハンドブックの改訂を行い、さらに1年生シラバスの改訂、4年制シラバスの作成をすることができた。また、アセスメントシートによる評価の結果、制度運用の程度は目標</td></tr></table>	成果	指標	達成状況	【成果1】 NIPESの体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。	【指標2】 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った4年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第1年次では制度の基盤が12月に整ったので、達成度を50%とする。そして今年度から実際に制度の運用を開始するため、第2年次の達成数値は新しく運用の程度を評価	【指標2の達成度】 活動1-15体育科コース運営ワークショップを通して、NIPESにおける4年制大学運営にかかる課題・教訓が抽出された。その内容を基にハンドブックを改訂し、教員用120冊、学生用150冊を作成した。 さらに第1年次に作成した1年生のシラバスを改訂し、新しく4年制のシラバスを作成し、各100冊印刷した。 第2年次は新型コロナ感染拡大の影響で対面による授業、研修会、会議がほとんどできない状況であったが、計画通り運営ハンドブックの改訂を行い、さらに1年生シラバスの改訂、4年制シラバスの作成をすることができた。また、アセスメントシートによる評価の結果、制度運用の程度は目標
成果	指標	達成状況					
【成果1】 NIPESの体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。	【指標2】 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った4年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第1年次では制度の基盤が12月に整ったので、達成度を50%とする。そして今年度から実際に制度の運用を開始するため、第2年次の達成数値は新しく運用の程度を評価	【指標2の達成度】 活動1-15体育科コース運営ワークショップを通して、NIPESにおける4年制大学運営にかかる課題・教訓が抽出された。その内容を基にハンドブックを改訂し、教員用120冊、学生用150冊を作成した。 さらに第1年次に作成した1年生のシラバスを改訂し、新しく4年制のシラバスを作成し、各100冊印刷した。 第2年次は新型コロナ感染拡大の影響で対面による授業、研修会、会議がほとんどできない状況であったが、計画通り運営ハンドブックの改訂を行い、さらに1年生シラバスの改訂、4年制シラバスの作成をすることができた。また、アセスメントシートによる評価の結果、制度運用の程度は目標					

		し、目標を 70%とする。	の 70%を達成する事ができた。 (アセスメントシートによる評価は 51%であり、既に達成済みの 50%を考慮すると、合計 75.5%を達成。)
【成果 2】 NIPES において、新しく認定されたカリキュラム・フレームワークに則って質の高い体育を教えられる人材が育成される。	【指標 1】 4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修がカンボジア国内で開催され、参加した NIPES 教員の 70%が 70%の内容を理解している。(授業を教える 36 名のうち、前年度に達成している 60%に加え、10%(4 名)の能力向上を図る。また、前年度の 60%(22 名)についても知識の定着度を図る。4 名については、本邦研修を実施し、その知識を自分たちで伝えていくことにより、知識を定着させる。理解していない職員に対しては、当会スタッフが補習を行う。	【指標 1 の達成度】 2 月 22 日にアセスメントシートを使ったテストを実施した。しかしながら、オミクロン株の感染拡大により NIPES 内の授業を対面からオンラインに変更したため、地方の実家に帰省した教員もあり、一度に全員を集めてテストをする事ができなかった。そのため、本来予定していた人数の 7 割弱ほどである 24 名からしか回答を得ることができなかった。テスト結果については、質問項目全 21 問の正解率平均は 12.13 問、58%であった。また、70%以上の正解率の者は 24 名中 7 名の、29%であった。 よって「70%の教員が 70%の内容を理解している」という目標を達成することはできなかった。 その背景として、新型コロナウイルス感染拡大の影響でほとんどの授業や研修会がオンラインに切り替えられ、効果的なグループワークやディスカッションが実施できず、十分な理解に繋がらなかったことが考えられる。また、ほとんどの対象者がオンラインによる双方向での授業や研修会を実施したことがなく、慣れるのに時間がかかった状況も影響していると思われる。	【指標 2 の達成度】 日本研修 (2 回) を実施する事ができなかったため、日本研修修了者はおらず、同研修生による改善案の提出もなされなかった。一方で、4 年制大学体育科コースの教授能力向上に向けたカンボジア国内研修会を合計 3 回実施し、研修に参加した 50 名全員で指導方法と評価についての課題を確認し、作成した改善案に同意した。
		【指標 2】 8 名の研修生が受講終了後に NIPES での指導方法についての改善案 (1 回目) 及び評価についての改善案 (2 回目) が提出され、NIPES の 75%の職員が改善案に合意する。	
		【指標 3】 NIPES の 70%のマネジメント・スタッフがアドミ	【指標 3 の達成度】 2 月 22 日にアセスメントシートを使ったテストを実施した。しか

		ッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシーや運営ハンドブックの内容を 70%以上理解している。(マネジメント職員 29 名中、前年度の 60%に加え、10% (3 名) の能力向上及び前年度の 60% (18 名) の知識の定着を図る。理解していない職員は個別にそれぞれの役割を確認した上で、なぜ理解できていないのかを確認し、個別に対応していく。) (各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は 60%、今年度は 70%の正解率を目指す。)	しながら、オミクロン株の感染拡大により授業を対面からオンラインに変更したため、地方の実家に帰省した教員もあり、一度に全員を集めてテストをする事ができなかった。そのため、12 名からしか回答を得ることができなかった。 テスト結果について、質問項目全 21 問の正解率の平均は 10.75 問、51%であった。また、70%以上の正解率の者は 12 名中 1 名の、29%であった。 よって「<u>70%のマネジメント職員が 70%の内容を理解している</u>」という目標を達成することはできなかった。 その背景として、新型コロナウイルス感染拡大対策の一環で学校閉鎖となり、授業はオンラインでの実施、教職員は自宅勤務することになったため、最低限のマネジメント業務しかできず、理解の定着に繋がらなかったことが考えられる。
	【成果 3】 NIPES において新しく整備された施設が適切に維持管理され、体育の授業に利用されている。	【指標 1】 プール、ジム機材等が実際に体育の授業等で利用規則に則って使用されている。	【指標 1 の達成度】 第 1 年次にプールが建設され、第 2 年次に周辺建屋、ジムルームの建設、ジム機材の設置が完了した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大によって学校が閉鎖され、対面での体育・スポーツの授業が禁止されたので、<u>実際に使用することができなかった。</u>
		【指標 2】 70%の NIPES 職員がプール周辺建屋及びジム・ルーム運営について、理解している。 各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は 60%、今年度は 70%の正解率を目指す。	【指標 2 の達成度】 プール、建屋、ジムルーム及び機材については NIPES 内で立ち上げられた管理グループによって適切に維持管理され、オンラインチャットを通じて毎日報告を受けている。 2 月 23 日、NIPES の施設管理方法を確認するためにアセスメントシートを使って、テストを実施した。 全職員 65 名中 31 人がテストを受け、質問項目全 45 問の正解率の平均は 37.03 問、82.29%であった。また、70%以上の正解率の者は 31 名中 29 名、93.55%であった。「<u>70%の NIPES 教職員が 70%</u>

			の正解率を達成する」という目標を達成した。
	本事業は、持続可能な開発目標（SDGs）の目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」、「2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」、「2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。」に資するものである。質の高い教員を大幅に増加させる為に必要な教員養成課程である4年制体育科コースのカリキュラム、運営ハンドブック、シラバスに従って、授業や授業の評価を実施した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンラインでの活動実施が中心となり、実践的な運営の点からは課題が残るものとなった。最終年次は、対面による活動の実施を通してNIPESの運営能力向上につなげ、NIPESが、質の高い体育教員を養成し、公立の中学校・高校に送り出す機関として十分に機能するよう協働して取り組むことで、上記3つ目標達成に貢献することができる。		
(4) 持続発展性	NIPESは、教育省内スポーツ総局の中の一つの機関として年間予算が確保されており、事業終了後も活動を継続できる機関であるため、持続発展性を確保することができる。 「(3) 達成された成果」に記したとおり、第2年次の本年度はカリキュラム、シラバス、運営ガイドブックに従って実際に運営し、課題と改善点を抽出して今後の改善計画を作成したり、シラバスや運営ハンドブックを改訂したりした。新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンラインでの活動が中心となったため、課題も残るものとなったが、これまでの協働や本事業で実施した研修会等を通して、NIPES教職員の間で4年制コース運営に関わる理解が深まってきている。事業終了後もNIPES自身が4年制体育科コースを継続的に運営していくことができるようになるよう、今後も制度構築及び人材育成に引き続き取り組み、NIPESとの協力体制を維持していく。 第2年次でプール周辺建屋、ジムルームの建設、ジム機材の設置が完了し、第1年次に完成したプールと合わせて体育の授業で利用できる環境が整備された。NIPES内でプールやジム機材の維持管理グループが立ち上げられ、オンラインチャットを使って日常的に報告や連絡が行われており、問題が発生すれば直ちに全員が理解し、対処できる体制が既に構築されている。また、重大な問題が発生した時は、機材を設置した会社に連絡し、修理する体制ができている。さらに、施設の利用者に対する使用規則を分かりやすく説明したパネル等を入口に貼ることで、全員が把握できるようにしている。第3年次では、整備された施設及び機材が実際に使用される予定であり、維持管理が継続してできているかどうかをモニタリングする。		

(ここでページを区切ってください)